



最後のオオカミ

奈良の東吉野に、オオカミの像がある。

それが記録に残る「最後のニホンオオカミ」の証しだと聞いて、ぼくはいてもたってもいられなくなった。山溪が深く刻まれた吉野の地は、山はもちろん川が美しい。そんな山河を駆け巡ったであろうオオカミの等身像があるのは、すぐそばを高見川がせせらぐ清らかな場所。印象的だったのは、山に向かつて吠えているような姿だ。ここに最後のオオカミが存在したんだという誇りのようなものを、かつて仲間と暮らした山中に向けて叫んでいるようだった。

じつは、蔵王権現発祥の地であり「金の御嶽」と呼ばれる吉野にはたびたび通っている。そのきっかけは、ほかでもない東京の御岳山であり、山に祀られる大口真神の

存在だった。初めて御岳山と大岳山に登り、

武蔵御嶽神社を参拝し、そこに神格化したオオカミを見たときの衝撃は、いまでも色褪せることなくぼくの心に記憶されている。よもや現代の大会・東京で、オオカミを信仰する文化が存在するとは……。加えて、神代の世の物語まで伝わっているではないか。歴史を辿る山旅を楽しんでいた当時のぼくにとつて、それだけで御岳山が特別な山になったし、ひいては東京を、そして日本を、もっと知りたいと思ったのだった。

オオカミを祀る山に関心をもったのも、そういう経緯からすれば当然のことだったのかもしれない。以来、奥多摩や奥秩父と



はじまりのオオカミ



いったニホンオオカミがたくさん棲息した山域をはじめ、ほかの地方にも「狛オオカミ」を探しにいったことがある。神となったオオカミは「大口真神」と呼ばれ、魔除けや農業の神として護符や木札にその名が記されたためられていることが多い。御岳山の山内や多摩地区の農地・民家の軒先などで見かけたという人も多いことだろう。

ついでながら、静岡の山住神社に伝わるオオカミの逸話が面白かった。世は徳川家康のころ。甲斐の武田信玄に三方ヶ原で敗れた家康が山に逃げ込んだ。すると、追ってきた武田勢に向かって突然おおきな地鳴りが起こったという。驚いた武田勢は逃げたそうだが、その地鳴りの正体こそ無数のオオカミの遠吠えだった。果たして窮地を

救ってくれたオオカミを、家康は大切にすると伝わる。ちよつと怖い存在でありながら、こうした「オオカミが危難を救ってくれた」という伝承は意外と多い。御岳山における日本武尊もそのひとりである。

そんなわけで、いま「低山トラベラー」を生業に日本各地の低い山を旅する大きな転機のひとつになったのが、まさに御岳山。この神なる山がなければ、いまの活動はないのだから、その意味ではぼくにとつて「はじまりの神」だといつてもいいだろう。いまでは、新しい取り組みがはじまると必ずお礼に訪れる大切な場所になったのだから。（文と写真・大内 征）



おうち せい 大内 征
低山トラベラー
／山旅文筆家

土地の歴史や物語を辿って各地の低山を歩き、自然の営み・人の営みに触れながら日本のローカルの面白さを探究。ピークハントだけではなく、知的好奇心をくすぐる山旅・の楽しみ方とトレイルを歩くことの魅力について、文筆と写真と小話で伝えている。

二〇一六年よりエヌエスラジオ深夜便「旅の達人」低山を「目指せー」にレギュラー出演中。NHKBS7P「レミアム」に「百名山」では雲取山と王岳、鬼ヶ岳の案内人として出演した。著書に「低山トラベラー」、『とつておき！低山トラベラー』(ともに「見書房」)、「低山手帖」(日東書院本社)などがある。NPO法人日本トレッキング協会常任理事。宮城県出身。



ムサくんだよ

御岳ビジターセンター

「季節を知らせる声」

少しずつ肌寒くなるこの季節。御岳山には秋を知らせる「声」が響き渡ります。その「声」とは、森で暮らす生きものたちの「恋の声」。今回は、この時期に気になるさまざま「恋の声」をご紹介します。

あなたは、これまでの人生で誰かに恋の声（ラブコール）を送ったことはありませんか？

ラブコールは一生に一度伝える方もいれば、毎日伝える方もいるでしょう。森で暮らす生きものたちも同じです。まず昆虫であるカントンは、草地の中で「ルルルルル」と美しい声と香り（誘惑腺）で女子に呼びかけま

す。人間でいう口説き文句と香水のようではないですか。自分を素敵に見せることは虫の世界でも一緒なのです。



※おしりからのイラストです

次は御岳山で聞こえる「恋の声」は、ニホンジカ。実際には複数の女子

と過ごす縄張りを他の男子に知らせる声です。日が沈んだ後、暗闇に響く「フイーヨー」。俺の女子たちに手を出すなー！……でも叫んでいるかのような高い声。この声は私にはいつも女性の叫び声に聞こえて、一瞬緊張が走ります。



最後は、御岳山のアイドル、ムササビの「恋の声」。ムササビは、複数の男子が女子の自宅（巣穴）を訪れ、出待ちをします。そして自宅の前で尻尾を揺らしながら「グルルルル」と語りかけるように鳴きアピール。

女子から見えないのでは？というところで尻尾を振り回し女子へのアピール行動をする男子やしきりに木から木へ移動する

男子と、なかなか忙しない男子たちです。

グルルルル



秋の夜長、森に出かける機会があればぜひ生きものたちの「声」に耳を傾けてみてください。ドラマチックな場面に遭遇するかもしれませんよ…？

みたけの重忠くん

作 たいやきジロー

Panel 1: 殿、北条の軍勢がこちらに向って来ますよ。十二日。

Panel 2: いや、もはやその猫子はあるまい。

Panel 3: 殿、よくない？ 近くに秘蔵の武器がある。フミに書いておくれ。

Panel 4: 宝物殿 開館 平日か？

大口真神式年祭 御奉賛のお願い

昨今の自然災害、世界的な疫病の蔓延、戦争など私達の生活を脅かし、誰もが先の見えない不安を抱えるこのような時こそ、諸災退除の守護神である大口真神の御神徳を輝かして、世界の平和と安寧、そして講中崇敬者皆様の家内安全・商売繁盛・厄難消除を祈念する「大口真神式年祭」がいよいよ来年、令和五年に催行されます。

現在その準備のため、修理事業および境内整備等を順次進めております。現在は、宝物殿 国宝収蔵展示ケース、国宝・赤糸威鎧修理事業 皇御孫命社玉垣修理事業を進めており、今後は中野鳥居塗り替え工事、産安社修理工事、宝物殿湿気対策工事、避雷針設置工事等を予定しております。

皆様の深いご理解とご信仰を賜り、心からの御奉賛を仰ぎたくお願い申し上げます。

御奉賛 一口 二千円